

第3学年 道徳科指導案

場 所： 3年2組教室

授業者： XXXXXXXXXX

I 主題構成表

主題名 「元気のもと」 教材名「いのちをいただく」(内田 美智子 作 魚戸おさむ 絵 西日本新聞社)

| | | |
|---|--|---|
| ■内容項目 D—(18) 生命の尊さ 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。 | ■内容項目から見た児童の実態 理科の学習で育てた昆虫や学年の畑の植物に関わる姿から、ほとんどの児童が身近な生命を大切にしていることがわかる。しかし、給食のときに「嫌いだから食べられない。」などと言っている姿から、自分たちが多くの生命によって支えられていることに対する感謝の気持ちが薄いと思われる。食べ物も元々は生命であり、その生命をいただいて生きているということを考えさせたい。 ■要因 食材や食品の状態を目にしているものが、生きているときの様子を知らない。そのため、自分たちが食べているものも、元はかけがえのない生命だということやその命をいただくことで自分たちが元気に過ごしているということに、なかなか思い至らない。 | ■教材の分析 本教材の主人公は食肉加工センターで働く坂本さんである。自分の仕事のあり方について葛藤する中で、牛との別れを悲しむ女の子と出会った。仕事を辞めようと考えていたが、女の子の家族の言葉を聞いて、自分の仕事に誇りを持つと決心する教材である。 坂本さんが出会った女の子は、初め、食肉になった牛の肉を食べることができていなかった。しかし、その牛のおかげで家族が生活できることに感謝し、「ありがとう。」「おいしかあ。」と言って泣きながら食べた。大切な命をいただくことで、自分たちが元気に生きていけることに気付かせたい。また、自分を支えてくれる全ての命に感謝し、大切に食べることが、全ての生命を大切にすることにつながることに気付かせたい。 |
|---|--|---|

| |
|---|
| ■ねらい 様々な葛藤を経て、「ありがとう」「おいしかあ」と泣きながらもみいちゃんを食べる女の子の気持ちについて話し合う活動を通して、多くの生命によって自分の生命が支えられているということに気づき、全ての生命を尊いものとして大切にしようとする心情を育てる。 |
|---|

| | |
|---|--|
| ■研究内容との関わり 研究内容1—(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・魅力ある教材の提示 研究内容1—(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・価値理解を促す主発問の位置づけ 研究内容1—(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り、よりよい生き方について考える場の位置づけ 研究内容3—(1) 主体的に地域貢献する地域講師との出会い ・ゲストティーチャーを招き、考え方や生き方を学ぶ場の位置づけ | ■基本発問(◎中心発問) ○『いのちをいただく』のお話を聞いて、どんなことを感じましたか。 ◎どうして女の子は泣きながらもみいちゃんを食べることができたのですか。 |
|---|--|

2 本時の展開

| | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点 |
|------|---|---|
| 導入 | <p>1. 教材に対する興味をもつ。</p> <p>○ゲストティーチャー（蒲生さん）の紹介をする。 これまで社会や総合的な学習の時間で学んできた、畜産農家の蒲生さんとの学びの写真や学習したことを確認する。 【ICT活用：画面表示・提示】</p> | <p>研究内容1—(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返ることで、本時考えていくことを想起させる。 ・ゲストティーチャーの紹介をすることで、展開後段への方向付けをする。 |
| 展開前段 | <p>2. 紙芝居「いのちをいただく」について話し合う。</p> <p>○「いのちをいただく」のお話を聞いて、どんなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛のみいちゃんとの別れがとても悲しい。 ・女の子がかawaiiそう。・自分だったら食べられない。 ・女の子は、最初は食べられなかったけれど、最後は感謝して食べていてすごい。 ・私も女の子のように食べ物を大切にしたい。 <p>◎どうして女の子は泣きながらもみいちゃんを食べることができたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みいちゃんの命を無駄にしくなかつたから。 ・初めはつらかつたけれど、みいちゃんが肉になってくれたことで、生活できることを知っているから。 ・「おいしかあ」と言葉にすることで、みいちゃんに感謝の気持ちを伝えて、食べることで、「ありがとう」の気持ちを伝えたかたから。 ・みいちゃんを食べることで、女の子が生きることができし、女の子の家族の生活もみいちゃんの命をいただくことで、支えられているから。 <p>【補助発問】</p> <p>「みいちゃんを食べることがつらかつたのなら食べなければいいのではないですか。」</p> <p>「わざわざ『おいしかあ』と言葉にしたのはどうしてだろう。」</p> | <p>※紙芝居は事前に読み聞かせをしておき、感想をノートに書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いた上で、子ども達が感じた率直な意見を引き出していく。 <p>研究内容1—(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感想や発言からみいちゃんを食べる女の子は、初めは食べることができなかつたが、最終的には食べることができたのはどうしてか、分析的な発問をすることで、生命を大切にするということは感謝の気持ちをもつていのちをいただくことだという価値に迫らせる。 ・「おいしかあ」と泣きながらもわざわざ言葉として発した女の子の気持ちを児童一人一人の言葉で話し合う。 ・自身の意見を明確にする手段として、場合によっては、補助発問を設ける。また、揺れ動く思いを持っている児童の意見も取り上げる。 ・自分と違う仲間の考えを比較することで、自分の考えを深めることができるようにする。 |
| | 展開後段 | <p>3. 価値を共有する。</p> <p>○講師（蒲生さん）から「いのちをいただく」ことについての説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな気持ちで育てているのか。（苦勞・嬉しいこと） ・どんな気持ちで食肉加工センターに送り出しているのか。 |
| 終末 | <p>4. 振り返りを記入する。</p> <p>「蒲生さんのお話を聞いて、どんなことを考えましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは命をいただかないと生きていけないから、命に感謝して食べたい。 ・私たちは、他の生き物の命を食べることで、命をつないでいることが分かつた。これからは、食べ物にきちんと「いただきます」といって食べたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートにまとめた後、交流する。 ・児童の意見をカテゴリー別に板書し、様々な意見をまとめていく。 <p>研究内容1—(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <p>振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学んだこと ・これまでは～だったけど、～ |